第２回 学校運営協議会　会議録

開催日時	令和５年 10 月２日（月）10：30～12：00	
会　　場	本校会議室	
出席者数	学校運営協議会委員　７名	学校　７名
出席者氏名	委員Ａ（今金町教育委員会 事務局長） 委員Ｂ（今金町農業協同組合長） 委員Ｃ（相談支援事業所相談室ひかり相談員） 委員Ｄ（今金町保健福祉課主幹保健師） 委員Ｅ（今金町商工会女性部） 委員Ｆ（今金町農業協同組合　青年部顧問） 委員Ｇ（寒昇町内会 会長）	・学 校 長　飯出　広行 ・教　　頭　金子　亘喜 ・事 務 長　市川　　聡 ・教務部長　山本　拓郎 ・総務部長　内田　義文 ・進路指導部長　田中　博昭 ・支援部長　山田みゆき

次第および校長が意見を求めた事項	学校運営協議会委員の意見
［本日の予定］ １　学校長挨拶 ２　日程説明 ３　新委員の紹介 ４　分科会 　第１分科会（校長室） 　第２分科会（教育相談室） 　第３分科会（会議室） ５　分科会報告 ６　質疑、諸連絡 ７　学校長挨拶 ＊＊以下、記録＊＊ １　学校長挨拶 　６月８日に実施した第１回学校運営協議会では、コロナ禍でできなかった授業公開も実施し、開催することができた。本校の学校運営方針を説明し、了承いただいた。今回はその進捗状況も含め、コミュニティ・スクールの意義である、地域住民や保護者等が学校運営に参画し、熟議をとおして目標やビジョンを共有することによって、地域と一体となった特色ある学校づくりを進めていくことができる、法に基づく組織としての機能を存分に発揮していただきたい。 　社会、地域、産業構造は大きな変化を遂げている。少子高齢化、高度情報化（IT 化）、グローバル化、ダイバーシティの進展といった、予測困難な時代が到来している。2025 年には、団塊の世代が後期高齢者（75 歳以上）となり、高齢人口の割合が増加、労働人口の減少により、労働者の不足が懸念されている。本校の生徒は、労働力という意味では、貴重な存在であり、今後更なる職域の拡大や、就労先の開拓が期待できる。また IT 化に伴い、教育活動の ICT の積極的な活用と、生徒への情報モラルを含む、情報活用能力の育成が求められている。更には、SDGｓの取り組みに代表されるような、持続可能な社会の実現のため、リサイクルや脱炭素、ゼロカーボン、カーボンニュートラルなどの環境問題の取り組みも求められている。時代の動向を踏まえた学校運営を行っていく必要があるため、そのためにもコミュニティ・スクール（CS）の役割は重要になってくる。分科会での熟議で学校経営へのご示唆をお願いします。	

２　日程説明
　　＊別紙参照

３　新委員の紹介
　前会長である北村　博幸様が 10 月 1 日付で北海道教育大学函館校キャンパス長に就任となった。今後は CS も含め他の委員も兼務できないということになったため、後任として、北海道教育大学函館校　細谷　一博様を選出。本日は所用のため欠席だが、次回からは参加となる。

４　各分科会
　　＊別紙参照

５　各分科会報告
＜第１分科会：報告者　市川　　聡＞
　前回の振り返りから、寄宿舎離れが進んでいるというところから、今後の学校経営に向けて話をした。町の就労支援でも一人暮らしが定着しない、グループホームの空きがないなどがある。寄宿舎離れが進んでいるが、それを有効活用し、メリットやデメリットを探っていく。生徒の自主･自立を育てるということを売りにしていければいいのではないかという意見が出ていた。全道的な傾向として、生徒数が減少しているということもあり、町としては地元での就労を期待しているが、現状はそうなっていない。そのようなことから、寄宿舎の有効活用が大事。女子棟では空き部屋が出ており、将来の一人暮らしに向けた練習の取り組みを進めている。生徒が少なくなったからできることのメリットでもあるが、生徒は増えたほうがいい。ただし、少なくなったからには積極的に有効活用をしていく。
　本校は全道的に見ても、地域連携がうまくいっていると思う。コロナの関係で、ここ数年できなくなったこともある。コロナ前にどうだったかということを整理し、地域連携ついて再確認していく必要がある。
　生徒に対しては、就労先の準備が学校としては使命である。保護者は将来の就労が一番気になると思うので、本校に入学すれば、就労ができるということをわかっていただくために教育活動を充実させていく。
　町との連携の部分では、早い段階から動いていかなければ、以前のように戻すことは難しい。（３，４年のブランクが大きい。）
　地酒の会に関しては、今金の地酒の器を学校で作ってみてはどうかという意見が出た。
　他校では、学校運営協議会の委員の選出が難しいという話がある中、本校は委員に選出しない人がいないくらい、地域から求められているということを自覚し、今までを振り返る。

＜第２分科会：報告者　内田　義文＞
　冒頭はコーディネータ―業務の推移について山田より説明を行った。ここ数年は生徒数が減少しているが、微増もしてきている。昨年度からは、檜山管内の中学校に出向いて、学校の PR も兼ねて生産品の販売を行い、学校の良さを伝えている。

今年度は実施しないが、檜山北部の小中学校との合同学習で小中学生に来てもらい、作業体験を行うことで、特別支援学校に対するハードルを下げるということもいいのではないか。乙部町から見学に来た保護者がいたが、寄宿舎に入ることが特性上（共同で物を使う、同じお風呂に入るなど）気になる生徒や保護者も多い。 学校では、寄宿舎で生徒中心に行事（夏フェス）を企画し、余暇を楽しむことを強調している。また、時代と共に生徒たちの「質（特性）」に応じて変化していくことが必要。 10 年ほど前の受験をしても落ちていたイメージが今でももっている方もいるので、受け入れたり出向いたりすることで、今後も本校の良さを伝えていく。 ＜第３分科会：報告者　山本　拓郎＞ 田中より、今年度卒業予定の生徒の進路動向、生徒の障害理解と自己理解について説明。その後、以下の３つのテーマで協議。 ①卒業後の住むところ ②農福連携 ③障害・自己理解 どのテーマの話にも「地域との交わり」ということが話された。青年部のイベントへの参加、部活動や課外授業で地域の人とつながるなどが話題に挙がった。今金町、住民の魅力が強いというところを生かすことで、学校運営がより良い方向に進むのではないか。 学校として今後取り組むことは、現在も他管内の学校へ情報を発信しているが、町の中にももっと情報を発信したほうがいい。町とのつながり、学校の魅力の発信について今後取り組んでいく。 ６　質疑、諸連絡 ・第３回学校運営協議会は、令和６年２月７日（水）13：10～14：40 を予定 ・次回は会長も参加予定。参加者の自己紹介を行う。 ７　学校長挨拶 我々は出口の指導をしている。ただ、切れ目のない出口の指導であるべきである。そういう意味でも、今金町の地域はまさに、人的、物的財産に恵まれていると本協議会をとおして感じた次第である。これほどまでに、人、モノ、気持ちがある地域はなかなかないということを改めて感じた。学校として、自主、自立、独立した生徒、ひいては、地元への就職も含めて、地域との連携を更に深めていく。そのためには、発信力を強化していかなければならない。本校がやっていることを一人一人の教員が報告、説明できるようになっていかなければならないと思っている。地域との交わりを更に深め、町民の魅力を感じながら教育活動を実践していきたい。時代に応じた生徒への支援、指導についても、まさに不易と流行、温故知新である。我々自身が今金町で今までやってきた業績、実績の本質を教職員で共有していかなければならない。委員の皆さんに置かれましては、電話や来校で本校の教育活動の充実にご理解と御協力を引き続きよろしくお願いします。	＜質疑なし＞